

和牛子牛価格の形成要因について

溝上 崇・箆 雅生 (佐賀県畜産試験場)

Takashi MIZOKAMI and Masaki OSA : Factor on Price Formation for Beef-Calf (Japanese-Black)

和牛子牛価格の形成については、市場の動向、種雄牛や繁殖雌牛の能力、子牛の発育、資質、体型等多くの要因が考えられる。また、子牛価格の安い時ほど、子牛の良否が価格に影響し、特に雌子牛にその傾向が強いといわれている。

そこで、子牛の市場性向上のため、飼養管理等で努力できる発育に関する要因のうち、出荷日齢、体重、体高、胸囲について、その相対重要度を検討した。

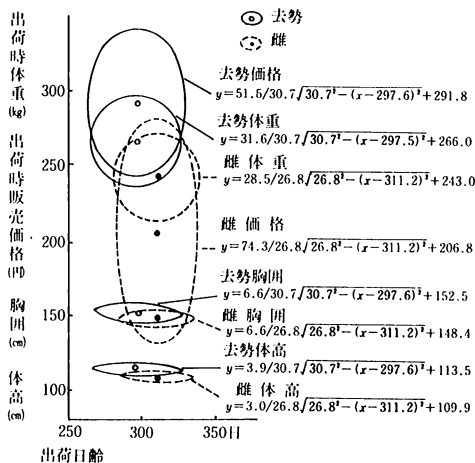
1. 調査方法

- 1) 調査期間 1975年 5月~'85年 3月
- 2) 調査場所 佐賀県経済連 畜産センター
(多久市 北多久町 小侍)
- 3) 調査対象 市場上場子牛のほぼ全頭
去勢 2467頭、雌 2173頭、合計 4760頭
- 4) 調査内容 価格、日齢、体重、体高、胸囲

2. 調査結果

1) 昭和59年度子牛市場の成績は、第1図のとおりであった。

①出荷日齢は、去勢298日、雌311日で、約10ヵ月齢での



第1図 昭和59年度子牛市場成績

○ だ円の横軸は出荷日齢の標準偏差
◇ 縦軸は各項目の標準偏差

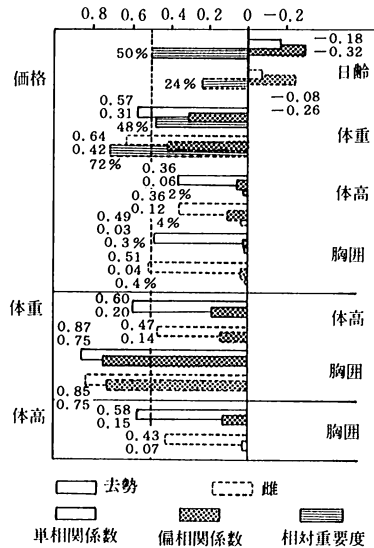
出荷で、標準偏差 (以下「SD」という)は、約1ヵ月であった。

②出荷体重は、去勢266kg、雌243kg、SDは去勢、雌ともに約30kg、体高は、去勢114cm、雌110cm、SDは同じく約4cm、胸囲は、去勢153cm、雌148cm、SDは同じく約7cmであった。

③価格は、去勢292千円、SDは52千円、雌207千円、SDは74千円で、雌子牛のSDが大きかった。

2) 価格を目的変数に、日齢、体重、体高、胸囲を説明変数とした相関係数、相対重要度は、第2図のとおりであった。

①価格に対する日齢の偏相関係数 (以下「相関」とい



第2図 価格に関する四要因 (日齢・体重・体高・胸囲) の単相関・偏相関および相対重要度

う)は、去勢-0.32、雌-0.26と負の相関を認め、四要因間の相対重要度は、去勢50%、雌24%であった。

②体重との相関は、去勢0.31、雌0.43とかなり高く、相対重要度も去勢48%、雌72%と高かった。

③体高、胸囲との相関は、認められず、相対重要度も低かった。

④説明変数間の体重と胸囲の相関は、去勢、雌ともに75%と高く、体重と体高、体高と胸囲の相関は、認められなかった。

3. 考察

1) 要因のうちSDの小さい体高、胸囲は、飼養管理等の改善で効果が現れ難いと思われた。

2) 価格に対する日齢の相対重要度は、去勢50%、雌24%と高く、負の相関 (去関-0.32、雌-0.26)を認め、早期出荷の効果が期待できた。

3) 体重の相対重要度も、去勢48%、雌72%と高く、正の相関 (去勢0.31、雌0.43)を認め、体重増の効果が期待できた。